

地域別集計報告 2022-12月

12月評価における経産牛の遺伝的能力評価値について、地域別の集計結果を掲載しています。

<比較対象>

改良の進み具合が分かるよう、現在と3年前の能力を比較したグラフを表示しています。

現在の値には2019年生まれの個体、3年前は2016年生まれの個体を対象に、SBV(標準化育種価)の平均を計算し、SBVの平均値と、()内には3年間の増加量を表示しています。

<地域区分>

個体数ができるだけ均等に確保できるよう、北海道、東北地方、関東地方、北陸・中部地方、近畿・中国・四国地方、九州・沖縄地方の6つの地域に分けて集計しています。

<対象形質>

泌乳形質や体型形質などから、総合指数にも関係する、乳量、乳蛋白質量、肢蹄、乳器、体細胞スコア、泌乳持続性、在群能力の7形質の評価値を対象としています。

体細胞スコアは値が低くなるほど好ましい形質であるため、正負の符号を逆にした値を掲載しています。

地域の特徴

—北海道—

- ・泌乳形質の評価値が高く、乳量、乳蛋白質量、在群能力は地域の中で一番高い。
- ・乳器は増加量が一番大きい。

—東北—

- ・体細胞スコア、肢蹄、乳器の評価値は地域の中で一番高い。
- ・体細胞スコア、在群能力は評価値の増加量が、一番大きい。

—関東—

- ・泌乳持続性の評価値が高い。
- ・肢蹄の増加量は地域の中で一番大きい。

—北陸・中部—

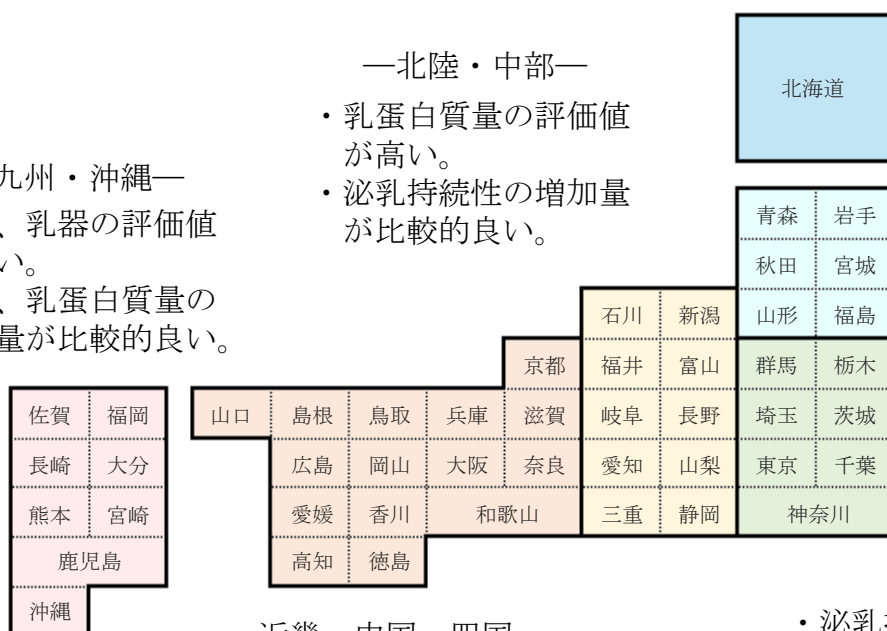
- ・乳蛋白質量の評価値が高い。
- ・泌乳持続性の増加量が比較的良い。

—近畿・中国・四国—

- ・泌乳持続性評価値が高い。
- ・全体的に3年間の増加量が大きく、乳量は地域の中で一番大きい。

—九州・沖縄—

- ・肢蹄、乳器の評価値が高い。
- ・乳器、乳蛋白質量の増加量が比較的良い。



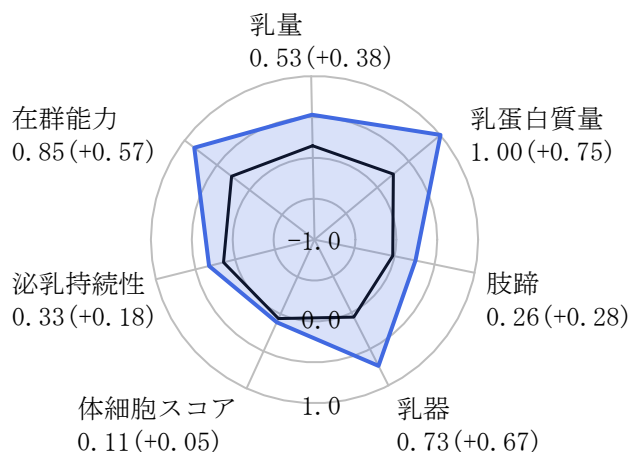
注) 増加量：各形質の「評価値」の増加量

— : 2019年 — : 3年前(2016年)

n = 乳量・乳蛋白質量/肢蹄・乳器/体細胞スコア/泌乳持続性/在群能力について、2019年の平均値を計算した個体数

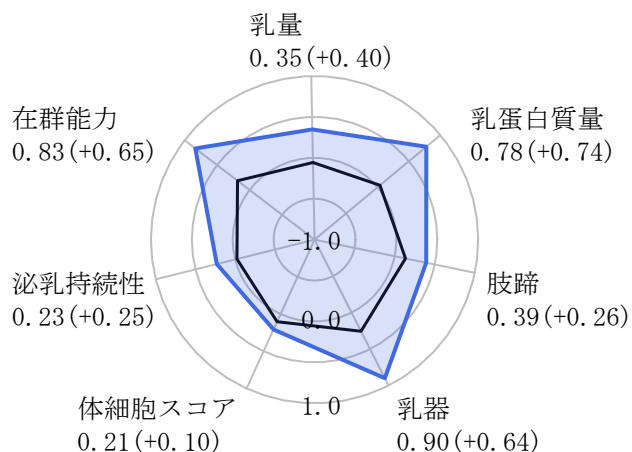
北海道

n = 105,820/ 22,673/ 100,430/ 105,820/ 11,955



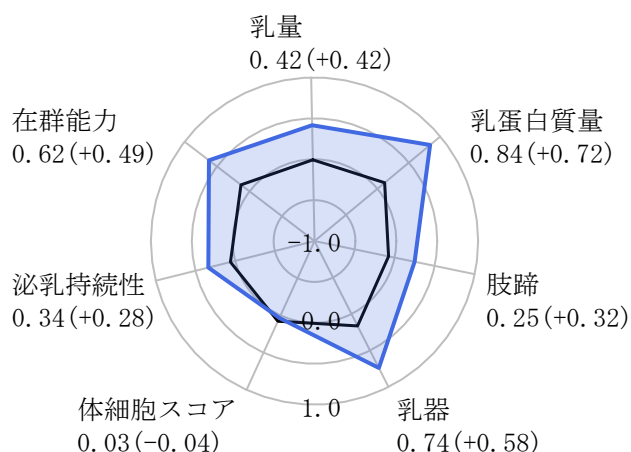
東北

n = 5,727/ 2,140/ 5,412/ 5,727/ 876



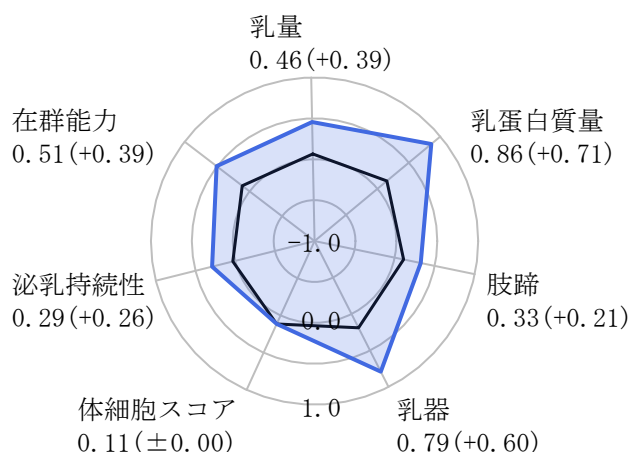
関東

n = 8,428/ 2,883/ 7,960/ 8,428/ 917



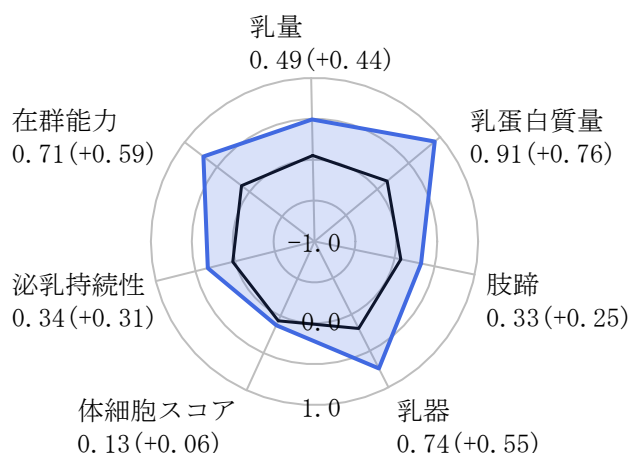
北陸・中部

n = 3,251/ 1,337/ 2,985/ 3,251/ 268



近畿・中国・四国

n = 5,639/ 1,227/ 5,222/ 5,639/ 478



九州・沖縄

n = 9,399/ 2,574/ 8,874/ 9,399/ 1,424

